

筑波大学グローバルコミュニケーション  
教育センター

日本語教育論集

第31号

2016

グローバルコミュニケーション教育センター紀要  
外国語教育部門  
日本語教育部門  
巻頭文

## グローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC) 開設初年度

センター長 浜名恵美  
平成 28 年 3 月

平成27年4月に開設されたグローバルコミュニケーション教育センター (CEGLOC) の使命は、以下のとおりである。

グローバルコミュニケーション教育センター (Center for Education of Global Communication、略称CEGLOC) の理念は、日本人学生及び留学生がともに外国語を日本語を学ぶためのより充実した環境を提供し、本学のグローバル化を推進するとともに、コミュニケーション力の基礎となる質の高い実践的教育を提供することです。

本センターに期待されているグローバルコミュニケーション教育とは、「共通語としての英語」、「初修外国語」、「その他の現地語としての外国語」、「その他のコミュニケーションツール」を必要に応じて駆使して、世界のだれとでも、意思を通じ相互理解することができる能力を育むことです。

「共通語としての英語」の4技能の向上は、特に日本人学生にとって喫緊の課題です。「初修外国語」としては、外国語教育部門で開設している7言語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、アラビア語）と、留学生を対象として日本語教育部門で開設している「日本語」、合計8つの言語があります。これら以外の言語が現地で使用されている国・地域へ留学等で行く場合には、本学の関連組織等の助言や支援を得て「現地語としての外国語」（例、ベトナム語、ポルトガル語）を学ぶ必要があります。「その他のコミュニケーションツール」とは、勉強でも研究でも対面コミュニケーションが最も大事であることに変わりはありませんが、特にICTによるさまざまなツールを駆使することができる力も必要になります。さらに、国語部門が、日本人学生の日本語運用能力を高めるために母語（国語）の教育を行います。母語による論理的思考力等を身につけることは、質の高い外国語能力を獲得するために不可欠です。

21世紀の国際社会が求めているのは、質の高い実践的な外国語運用能力、世界の人々と交渉し、共に働き、共に創造するためのコミュニケーション力、グローバルに活躍できる力 (global competence) を身につけた人材です。

本センターの教育研究にかかわる教職員は、こうした能力を促進するための教育の改革を前向きに受け止め、学生のコミュニケーション力及び語学運用能力を高めることに使命感と喜びを感じています。私たちは、学生たちと生き生きと相互作用を行いながら、革新的な教材と指導法を開発することをめざしています。(出典：CEGLOCリーフレット)

グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）の開設初年度は、まず、企画調整部門、外国語教育部門、日本語教育部門、国語部門、教材開発・支援部門という5部門を設置した。平成27年6月19日にはCEGLOC開設記念シンポジウムとして「グローバルコミュニケーション教育センターの挑戦」を開催し、主に外国語教育部門、日本語教育部門、国語部門の連携の強化を図り、21世紀に必要な刷新的な語学教育および教材開発を模索した。本学のスーパーグローバル大学構想を支えるCEGLOCの開設初年度の目標は、ほぼ実現できたと思われる。財政的には厳しさが増すとはいえ、次年度以後の大いなる挑戦と発展に期待したい。

## ま え が き

平成27年度、旧留学生センターの日本語教育部門は、グローバル・コモンズ機構から離れ、新しくできたグローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）に統合された。筑波大学がスーパーグローバル大学に採択されたことに伴う改組の一つである。日本人学生の国際化を図るための実践的外国語教育の推進、その基盤となるコミュニケーション力をつけるための国語教育の充実、今後ますます増加が予想される留学生に対する日本語教育のさらなる整備という3つの柱に加えて、e-learning、e-testingを含む新たな言語教育メディアの開発を支える教材開発支援部門も設置された。旧留学生センターが文部科学省の認定を受け5年にわたって進めて来た日本語・日本事情遠隔教育拠点事業も平成27年3月に第一期が終了し、4月から新しいセンターの下で第二期が始まったところである。

この論集第31号は、新しいセンターの下で発行される最初の号であり、4本の研究論文、8本の実践報告、1本の活動報告が寄せられている。いずれも、CEGLOC日本語教育部門の専任・非常勤の教員およびグローバル・コモンズ機構の教員による研究および教育の成果である。本号に掲載されている実践報告からもわかるように、激増する留学生たちの多様なニーズに対応するため、初級から中上級までの多様な日本語クラスが実施され、さまざまな意欲的な取組みが実践されている。また、活動報告に紹介されているような日本人学生による留学生へのピア・サポートデスクの取組みも充実しつつある。

改組に伴う多くの難問を抱えながら、日本語教育部門の業務が滞りなく行われてこられたのは、センター長、各部門長、CEGLOC事務職員の皆さんからの多大な協力と支援のおかげであり、同時に、専任・非常勤の日本語教員が心を合わせて留学生教育に献身してきた結果であると確信している。また、グローバル・コモンズ機構の教員・職員の皆さん、学生交流課職員の皆さんが、組織が分かれた後も変わらず協力と情報共有を続けてくれているのも我々の力となっている。心から感謝申し上げたい。

一方、大学全体が予算削減、人員削減の嵐の中にあり、その影響は、大学のグローバル化のために緊急に強化するべき課題の一つである言語教育を担う本センターにも及んでいる。センター教員は、本学における言語教育の充実、整備ばかりでなく、世界に資する人材育成のための言語教育を目指し、さらなる課題と取り組んでいく必要がある。

2016年3月

グローバルコミュニケーション教育センター  
日本語教育部門長 加納 千恵子

# 目 次

巻頭エッセイ (センター長)

まえがき (日本語教育部門長)

## 論 文

1. クラスタ分析による多義語の語義分類  
—「切る」を例に— …………… 今井 新悟 ……… 1
2. 接触場面初対面会話における話題スキーマ  
—日本の大学における留学生と日本人学生の会話からの示唆—  
…………… 関崎 博紀 ……… 17
3. 初対面相手に対するパーソナル・テリトリーへの言及  
—日本語母語話者と韓国人日本語学習者の意見述べの会話を通して—  
…………… 許 明子 ……… 33
4. 多言語背景をもつ年少者のための理科日本語語彙テスト開発に向けた  
語彙表の作成 …………… 田中 裕祐・甲斐 晶子・関 裕子 ……… 51

## 報 告

5. 落語・小咄を利用した日本語学習支援CALLプログラムの開発と試行  
…………… 酒井 たか子・山田 亨 ……… 69
6. 2014年度の漢字中級前期クラスの授業報告  
—「振り返りシート」と活動評価アンケートからの考察—  
…………… 中尾 菜穂 ……… 81
7. 学習者による漢字力の自己評価について  
—漢字クラスのレベルによるCan-do statements調査結果の違い—  
…………… 加納 千恵子 ……… 95
8. 上級者対象口頭表現クラスでの活動と自己評価の変化  
—アカデミック日本語として何を指すか—  
…………… 堀 恵子 ……… 107
9. 中上級日本語学習者のレベルチェック作文における典型的問題点  
…………… 加藤 あさぎ・小浦方 理恵・石上 綾子  
木戸 光子・田中 孝始・長戸 三成子 ……… 127

10. 日本語授業を活用した留学生のキャリア支援  
 ー文化的統合型キャリア支援プログラムの開発と実践ー  
 …………… 鈴木 華子 …… 147
11. 基本文法の教室内学習と実践的言語運用について  
 ー学習者制作映画における既習・未習文法分析ー  
 …………… 関口 美緒 …… 159
12. 日本語・日本事情遠隔教育拠点報告2015  
 …………… 今井 新悟・李 在鎬 …… 173

### 活動報告

13. ピアサポートデスクによる留学生への予防的支援  
 ーAsk Us Deskの取組みー …………… 鈴木 華子・舟木 玲 …… 183

## 日本語教育研修会（2015.1～2015.12）講演要旨

- 1月13日(火) アイデンティティーにおける「喪失のメタファー」 …… 197  
 橋本 洋二（タスマニア大学准教授）
- 1月19日(月) 第二回 文化とことばのコラボレーション …… 198  
 筑波大学留学生センター文化とことばのコラボレーション実行委員会
- 5月14日(木) グローバル市民育成とe-learning …… 199  
 豊田 悦子（メルボルン大学上級講師）
- 11月11日(水) 落語の小咄を理解するためのCALLプログラムの開発 …… 200  
 酒井 たか子（筑波大学人文社会系国際日本研究専攻教授）  
 ブッシュネル・ケード（筑波大学人文社会系国際日本研究専攻准教授）  
 山田 享（筑波大学人文社会系国際地域研究専攻助教）

あとがき（日本語教育論集 編集委員）

## あ と が き

筑波大学の日本語教育の現場では日々研究と教育、文化と生活が交差している。日本語教育現場への応用のために研究を行い、教育現場への貢献を目指す。また、現場からのフィードバックを得て、さらに研究を継続していく。まさに、研究と教育が実践的に結びついた躍動感あふれる研究教育現場であると思う。このような日本語教育の現場に身を置き、教育・研究活動に携われることに感謝してやまない。

本号には多義語の語意分類、接触場面における話題スキーマー、日本語学習者と母語話者の発話内容の分析、語彙テストの開発をテーマとした4本の研究論文が寄せられ、どの研究も日本語教育学に資する貴重なものである。また、漢字クラス、会話クラス、作文クラスなど9本の報告が寄せられ、現場での取り組みと成果が報告されている。特に、本号の特筆すべき論文は、落語・小咄を日本語学習への応用を目指したCALLプログラム開発に関する報告と、留学生の生活支援のために開設されたAsk Us Deskの取り組みに関する報告である。落語を日本語教育に応用する試みは本センターでは継続的に行われている試みであり、今まで大きな成果を残してきた。次の段階として学習プログラムの開発と運用が試みられているが、今後の成果が期待される。

本年度から旧留学生センターからグローバルコミュニケーション教育センターに改編され、変化の多い1年であった。30年間続いてきた『留学生センター日本語教育論集』が『グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』へと引き継がれ、第31号として刊行することができたことを嬉しく思う。今後のさらなるグローバル化に向けた学内組織の改編であり、日本語コースを担当している教員に対してもさらなる躍進が期待されているものと思う。

今年度1年間、日本語教育現場で培った様々な経験を活かし、来年度はさらに充実した現場の運営を目指していきたい。

2016年3月

グローバルコミュニケーション教育センター日本語部門

日本語教育論集 編集委員

許 明 子

# 「日本語教育論集」の編集発行について

(昭和63.9.29改訂)

(平成 2.2.20改訂)

(平成18.1.24改訂)

(平成26.1.27改訂)

(平成28.2. 改訂)

## 1. 目的

日本語教育およびその関連領域に関する教育研究上の成果を編集発行する。

## 2. 編集委員会等

「日本語教育論集」の編集発行に関する事項を審議するための編集委員会を置き、編集委員会は編集委員で組織する。

## 3. 編集委員

グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育部門の教員によって構成する。

## 4. 編集委員の任期

編集委員の任期は、1年とするが、再任を妨げない。

## 5. 投稿資格

原則として、本学の専任・非常勤教員とする。

共著の場合は、上記の教員が1名含まれていればよい。

また、共同研究者、研究協力者など、グローバルコミュニケーション教育センター長が適当と認める者。

## 6. 投稿論文の分野

日本語教育およびその関連領域に関するもの。

## 7. 投稿論文の採否

編集委員あるいは編集委員の委嘱する専門家の査読の結果により、編集委員会が採否を決定する。

## 8. 使用言語および書式

使用言語は日本語または英語とするが、編集委員会で認める限りどの言語でもよい。

原稿は編集委員会の定める書式に従い、長さは原則として20頁を越えないものとする。

## 9. 発行回数

原則として、年1回とする。

毎年、9月初旬に投稿申し込み、10月初旬に投稿締切、査読を経て12月初旬に最終原稿締切、翌年2月末に発行予定とする。

## 10. その他

本論集は、筑波大学電子図書館に登録されている。



## 執 筆 者

今井 新悟	筑波大学人文社会系	教 授 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
加納 千恵子	筑波大学人文社会系	教 授 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
木戸 光子	筑波大学人文社会系	准教授 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
酒井 たか子	筑波大学人文社会系	教 授 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
関崎 博紀	筑波大学人文社会系	助 教 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
許 明子	筑波大学人文社会系	准教授 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
李 在鎬	筑波大学人文社会系	准教授 (グローバルコミュニケーション教育センター勤務)
山田 亨	筑波大学人文社会系	助 教 (グローバル・commons機構勤務)
鈴木 華	筑波大学人文社会系	助 教 (グローバル・commons機構勤務)
石上 綾子	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
加藤 あさぎ	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
関 裕子	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
関口 美緒	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
田中 孝始	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
中尾 菜穂	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
長戸 三成子	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
堀 恵子	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター	講師 (非常勤)
舟木 玲	筑波大学グローバル・commons機構	カウンセラー (非常勤)
甲斐 晶子	桜美林大学言語学系	助 教
小浦方 理恵	麗澤大学外国語学部	講 師
田中 裕祐	マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院	青年海外協力隊

## 編 集 委 員

加納 千恵子	教 授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
今井 新悟	教 授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
小野 正樹	教 授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
酒井 たか子	教 授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)

木戸 光子		准教授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
ブッシュネル	ケード	准教授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
許 明子		准教授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
李 在鎬		准教授 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)
関崎 博紀		助 教 (人文社会系・グローバルコミュニケーション教育センター)

筑波大学グローバルコミュニケーション  
教育センター日本語教育論集 第31号

平成28年3月10日

発行者 筑波大学グローバルコミュニケーション  
教育センター

浜名 恵美

発行所 筑波大学グローバルコミュニケーション  
教育センター

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話 029-853-6062

印刷所 筑波印刷情報サービスセンター協同組合

〒300-4111 茨城県土浦市大畑565-2

電話 029-862-5027

**Journal of Japanese Language Teaching**  
**(NIHONGO KYOIKU RONSHU)**  
**Volume 31**  
**Contents**

**Research Articles**

1. Classification of Senses of Polysemy with Cluster Analysis :  
"kiru" (to cut) ..... IMAI Shingo
2. Topic Schema at First Meeting of Contact Situation : implications from  
conversations between Japanese students and foreign students at a  
Japanese university ..... SEKIZAKI Hironori
3. Reference to the Personal Territory of a Partner is first-encounter  
Conversations : opinions expresses in the conversation of a Japanese  
native speaker and a Korean learner of Japanese Language.  
..... HEO Myeongja
4. Compiling a Vocabulary List for a Development of a Japanese Vocabulary  
Test of Science for Bilingual and Multilingual Children  
..... TANAKA Yusuke, KAI Akiko, SEKI Yuko

**Practical Articles**

5. Rakugo CALL Program for Japanese Language Teaching : its development and  
Possibilities for implementation ..... SAKAI Takako, YAMADA Toru
6. A Report on the 2014 Lower-Intermediate Kanji Class : considered from  
self-evaluations by learners and questionnaire results  
..... NAKAO Naho
7. A Study on Learners' Self-Assessment of Kanji Ability : difference of the  
learners' awareness concerning their working knowledge of kanji by using  
a can-do statements form ..... KANO Chieko
8. The Activity of Speaking Class for Advanced Level Students and Change  
of Self-Assessmentscores ..... HORI Keiko
9. Typical Problems of Intermediate and Advanced Japanese Learners in Level  
Check Writing ..... KATO Asagi, KOURAKATA Rie, ISHIGAMI Ayako,  
KIDO Mitsuko, TANAKA Takashi, NAGATO Minako
10. Utilizing the Japanese Course to Provide Culturally Appropriate Career  
Services for International Students ..... SUZUKI Hanako

11. Learning Basic Grammar and Practical Performance : an analysis of learned  
and unknown grammar in a learner-produced movie  
..... SEKIGUCHI Mio
12. Report on the Center for Distance Learning of Japanese and Japanese  
Issues 2015 ..... IMAI Shingo, LEE Jae-Ho
13. Providing Peer Support to International Students : “Ask Us Desk” as  
preventive intervention ..... SUZUKI Hanako, FUNAKI Rei

Abstracts of the Lectures given at the Japanese Language Education Training Meeting  
(2015.1~2015.12)